

会 議 要 旨

(1 / 4)

会議の名称	第2回台風第21号内水浸水検証準備会議
開催日時	平成30年 3月 9日 (金) 19時00分 開会 ・ 20時15分 閉会
開催場所	ウエスタ川越 会議室1・2
議長（委員長・会長）氏名	埼玉大学教授 田中規夫
出席者（委員）氏名 (人数)	別紙 出席者名簿の通り
欠席者（委員）氏名 (人数)	別紙 出席者名簿の通り
事務局職員 職 氏 名	別紙 出席者名簿の通り
会議次第	1 開会 2 会議の公開・非公開について 3 議題 (1) 気象状況 (2) 浸水範囲の想定 (3) 浸水要因の想定 (4) 対策案の想定 4 その他 5 閉会
配布資料	・ 次第 ・ 出席者名簿 ・ 座席表 ・ 第2回台風第21号内水浸水検証準備会議資料

議 事 の 経 過

1 開会

- ・建設部副部長開会
- ・建設部長挨拶
- ・委員紹介

2 会議の公開・非公開について

- ・会議は公開とすることで決定。

3 議題

- ・事務局から資料の内容を説明。
- ・委員からの発言要旨は以下の通り。

【気象状況について】

- ・台風 2 1 号の降雨の特徴として、広範囲に同規模の雨が降った。
- ・降雨の波形は後方集中であり、さらにその前に長い期間の降雨があったことがわかる。
- ・このことから平成 2 8 年 8 月と比べ大きく状況が異なっている。
- ・西消防署地点の実績降雨データを江川合流点の水位データと比較しているが、新河岸川の水位に与える影響を検討する上では新河岸川上流域の降雨データとも比較した方がよいのではないか。

【浸水範囲の想定について】

- ・2 3 日 5 時の浸水範囲を示しているのは、ピーク時の範囲を示したということによいか。
→その通りです。
- ・当日の樋門操作状況を踏まえた場合の再現計算結果も資料としてあるとよいのではないか。
- ・再現計算の中でハイトグラフの条件はどのように設定しているか。(平均値か西消防署地点かその他地点か。) 資料としてわかるようにした方がよい。
- ・このような解析結果は誤差を明示して、誤差を念頭に含め議論した方がよい。
- ・平成 2 9 年の降雨と平成 2 8 年の降雨では、降り方や水位の状況、樋門操作が異なる。その辺りをよく分析し、まとめておいた方がよい。
- ・浸水実績の点線と浸水想定域に違いが生じているのは。
→空き地など家が建っていない場所である
- ・解析結果と床下浸水実績の範囲は概ね傾向は一致している。

議 事 の 経 過

【浸水要因と対策案の想定について】

- ・降雨による水位変動で樋門を閉めるということは一般的な河川管理であるが、操作時のデータ（水位や時間）を過去との差異と整理して示した方がよいのではないか。
- ・前回の会議でも話があったが、浸水の要因としてどこからどのように水が出たかという検討が必要。（場所、時間）
- ・精度の問題もあるが、時系列で浸水状況の推移を示すことは浸水メカニズムの整理をするには有効な手段になるのではないかな。
- ・河川の水位も、流れや波により20～30センチ程度の観測差が出るので、その程度の誤差を含む結果として考えた方がよい。
- ・流域の市街化による変化は、検討状況が見られるとよかった。
- ・対策については、対象とする外力（雨量等の条件）と目標とする効果の設定をどうするか検討した上で整理した方がよい。
- ・内容も、短期的なものと中長期的なものが考えられるが、それぞれできることを整理した方がよい。
- ・雨水調整池とあるが場所の候補はあるのか。下流域は住宅街で難しいのではないかな。
- ・河川の水位や地形等の影響などの諸条件の違いや制約により、対応策としてもできることとできないことがある。
- ・何か対策を講じても、条件によっては防ぎきれないことがあることを市民によく説明しつつ進めた方がよい。
- ・対策案も一つでなく様々な方法を検討した方がよい。
- ・今後の方向性として、水位など様々な状況を測定できる体制を整えた方がよい。その上で、データは市民等が閲覧できる体制になるとよい。
- ・調整池を検討するのであれば地下水の影響を考慮し、ボーリングデータなどの基礎資料も収集した方がよい。
- ・資料中『通常期より高い』などの表現があるが、いつよりどう違うかが、市民に伝わりやすいように工夫するとよいのではないかな。
- ・樋門は操作規則に基づき操作することが原則であり、人の判断で開閉の操作をすることは非常に高度で、危険性を伴うことやその人の責任になることもある。今後、操作規則も含め委員会で議論していきたい。
- ・今後、検討委員会の中では短期的・中長期的な対策の案を分けて示していくことが必要ではないかな。

議 事 の 経 過

4 その他

→事務局より説明

- ・準備会議は今回で終了だが、今後は付属機関として委員会の開催を予定しており、今回までの意見を踏まえ整理を進めていく。
- ・資料や検討内容については検証途中のものであることから委員個別でのマスコミ対応は難しいと考えられる。事務局で一括して対応するものと思いたいと思う。
- ・次回の会議に向けた意見や必要な資料等、会議後であっても思いついたことは事務局へ連絡をいただきたい。

5 閉会

午後8時15分 終了